「脳神経外科の疾患の救急は絶対に断らない」をモットーに難易度の高い安心な脳血管内治療を行い地域医療に貢献する

2014年7月から脳血管内治療外来を開設

大西脳神経外科病院では2014年7月から脳血管内治療外来を開設した。「脳神経外科専門医であり、脳血管内治療専門医でもある大西宏之医師、髙橋賢吉医師、岡本薫学医師の3人が常勤して診療に当たっています」と大西英之院長は話す。

同院の2014年1月～12月の脳血管内治療は161件。中でも多いのが、脳動脈瘤の治療だ。脳動脈瘤は、脳の血管にできた瘤（こぶ）で、破裂するとくも膜下出血となる。「マイクロカテーテルという細い管を動脈瘤の中に誘導し、プラチナ製の細い金属であるプラチナコイルを動脈瘤の中に挿入するコイル塞栓術を施します。これにより動脈瘤内部が血栓化し、破裂しなくなります」と大西宏之医師は説明する。

首の頸動脈が動脈硬化や狭窄を起こした場合は、脳梗塞を予防するために頸動脈ステント留置術を行う。風船（バルーン）付きのカテーテルで細くなった部分を拡張し、さらにプラークや血栓が流れて脳梗塞を起こさないように網状の金属の筒であるステントを留置する治療法だ。最近は、フィルターという傘を広げて、プラークや血栓をキャッチする新しいデバイスも開発され、威力を発揮しているという。

急性動脈閉塞に対する再開通療法も行われている。「2015年になってから、急性期脳梗塞に対する再開通療法の有効性が提示されたばかりで、カテーテル治療の中では一番トピックスな治療です。これまで脳梗塞になった方は、なかなか治療するのが難しかったのですが、カテーテルによる再開通療法を適用することで、社会復帰ができるようになりました」と髙橋賢吉医師はいう。

エキスパートの医師が血管内治療と外科的治療を行う

脳血管内治療では、安心な治療を常に心がけている。「血管内治療は、頭を切らないので低侵襲治療となっていますが、患者さんの中には低侵襲＝安心治療であると思っている方もいらっしゃいます。ただ、血管内治療が難しいと判断した場合は、開頭手術で対処します。当院には、その両方ができるエキスパートの医師がいるのが強みです」と大西医師は強調する。

大西 英之 院長

おおにし・ひでゆき
医学博士。奈良県立医科大学卒業。2000年12月に脳神経外科病院を開院。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医。奈良県立医科大学臨床教授。The 7th Pan-pacific Neurosurgery Congress, President、第18回日本臨床脳神経外科学会会長

脳血管内治療
情熱医療 プロフェッショナルドクター PROFESSIONAL DOCTOR

（上）安心治療を行うには、脳血管造影（DSA）とCT（コンピューター断層撮影法）、MRI（核磁気共鳴画像法）による画像が必要である。中でも3D-DSAは、3次元撮影を動脈や静脈に施すことで、術前シミュレーションに役立つ融合画像を作成することができる
（左）この日は脳動静脈奇形の患者さんを治療。脳血管内治療を3回に分けて行い、その後、血栓化したものを外科的治療で取り除く

カテーテル操作には豊富な経験に基づいた繊細な手技を要する

医療法人社団 英明会 **大西脳神経外科病院**
兵庫県明石市大久保町江井島1661-1
http://www.onc.akashi.hyogo.jp/
〈TEL〉078-938-1238
〈診療科目〉脳神経外科、神経内科、放射線科、麻酔科（鈴木夕希子）、リハビリテーション科
〈診察時間〉9:00～12:00／14:00～17:00
〈休診日〉土、日、祝　〈病床数〉122床

同院ではハイブリッド手術室を用意し、血管内治療と外科的治療がスムーズに行える体制を整えている。

毎朝カンファレンスなどで高度なチーム医療を実現

「当院は、単科病院として医師と看護師、放射線技師、療法士などとの意思疎通が図りやすく、高度なチーム医療を実現しています」と大西医師が話せば、高橋医師も「全員参加の早朝カンファレンスはもちろん、看護師などのコメディカルを含めた院内勉強会を開き、医療の質のレベルアップに取り組んでいます」と言葉を続ける。

脳卒中は地域との連携が大事なため、市民の方たちを対象とする講座を開催し、その啓蒙・啓発活動を積極的に展開している。

「年3回、市民公開講座を開いています。2015年7月の講座では、約200人が集まりました。前回は血管内治療の話をしましたが、講座では脳卒中と認知症において少しでも怪しいと思ったら、すぐ病院に来てくださいと訴えています」と大西医師。

救命救急の隊員とも研究会を開き、情報交換を行っている。「当院では、脳神経外科の疾患の救急は絶対に断らないようにしています。搬送された患者さんがどうなったのか、救急隊員の方に必ずフィードバックし、理解を得るようにしています」と高橋医師はチームワークの大切さを説く。

大西 宏之 医師

おおにし・ひろゆき
医学博士。2002年、大阪医科大学卒業。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医、日本脳神経血管内治療学会認定脳血管内治療専門医。日本脳神経外科学会評議員、近畿脳神経血管内治療学会世話人

髙橋 賢吉 医師

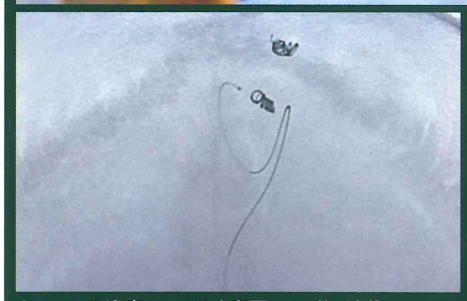
たかはし・けんきち
医学博士。2003年、大阪医科大学卒業。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医、日本脳神経血管内治療学会認定脳血管内治療専門医。日本脳神経外科学会評議員

人々の健康と社会福祉への貢献を目指す

地域密着医療の中でのユニークな試みとしては、オープンホスピタルがある。「明石の教育委員会とタイアップして、小・中・高校生を対象に医師や看護師、薬剤師がどんなことをしているか活動状況を見てもらいます。将来のための人材育成に少しでも貢献、寄与できればと思っています」と大西院長は話す。

大西脳神経外科病院の社会貢献への取り組みは、海外にも及ぶ。同院は、早くからネパールの医療発展を願い、ネパールの国際学会に参加し、現地で医療支援の手術も行ってきた。

「ネパールの首都カトマンズにある、アンナプルナ脳神経外科病院のバサント・パント医師と古くから交流があります。2013年10月からアンナプルナ脳神経外科病院の実習プログラムの一つに、当院での研修が加わりました。現在、ネパールから2名の研修医を受け入れています」と話す大西院長は、これからも人々の健康と社会福祉に貢献したいという決意を改めて語った。



カテーテル治療でコイルを留置。この後、液体塞栓物質（接着剤）を流して血流量を減らしたり、奇形そのものの体積を小さくしたりする